

一般研究集会（課題番号：2019K-04）

集会名：気候変動予測と災害激甚化への適応に関する研究集会 ～IPCC AR6 への貢献のために～

主催者名：（共催）文部科学省「統合的気候モデル高度化研究プログラム」テーマ C/D

研究代表者：仲江川 敏之

所属機関名：気象研究所

所内担当者名：中北 英一

開催日：令和1年10月7日

開催場所：京都大学宇治キャンパス

参加者数：82名（所外54名，所内28名）

- ・大学院生の参加状況：11名（学部3名，修士5名，博士3名）（内数）
- ・大学院生の参加形態 [発表，聴講，運営補助]

研究及び教育への波及効果について

気候変動予測と災害激甚化への適応に関する最新の研究成果を，理学と工学の分野で共有することができ，学際的なコミュニティの醸成の端緒とすることができた．来る気候温暖化による豪雨，河川氾濫，高潮の個々の予測と，それらの複合災害についての視点，今後の気候変動予測データセットについて議論することができた．また，若手研究者，女性研究者に発表の場を提供し，多くの大学院生の参加を実現でき，このコミュニティを担う次世代の育成にも寄与することができた．

研究集会報告

(1)目的

2017年九州北部豪雨，2018年7月豪雨を始めとして，温暖化の進行に伴って観測史上最大級の気象外力により，極端気象災害は激甚化の様相を示し，新たな対応に迫られている．こうした状況の下，現在から今世紀末に至るまでのシームレスな気候変動を知り，適応してゆくためには，科学的根拠にもとづく極端気象の長期評価の必要性が社会的にも要求されている．本研究集会では，温暖化研究に従事する学際的な研究者が一堂に会して，最新の研究成果について討議する．

(2)成果のまとめ

本研究集会では，温暖化を予測する研究者とそれを利用して影響評価する研究者が，異分野の垣根を越えて，大学・研究機関等で行われている最新の研究や知見を共有された．これにより，温暖化研究を，時間軸のみならず学問としてもシームレス化する端緒になったと言える．また，2021年に発刊予定のIPCC第6次レポートや我が国の政策に貢献するために，今，何をすべきかについて議論を行い，今後の研究指針を共有できた．

(3)プログラム

開催日：2019年10月7日（月）11:00～18:00

場 所：京都大学宇治キャンパス きはだホール

会 場：きはだホール他

開会のあいさつ（統合PD・住先生）

0）温暖化関連プロジェクト進捗紹介

（11:00-12:00）

テーマD：

京大・中北

テーマC：

気象研・高薮

テーマA：

JAMSTEC・建部

SI-CAT :	JAMSTEC・石川	
1) 行政の動き		(12:00-12:25)
気候変動評価レポート 2020	気象庁・藤本	
風水害に関する行政の動き :	京大・中北	
(お昼休憩)		
2) モデル開発・シナリオランの状況		(13:20-15:20)
MRI-AGCM,CGCM, RCM :	全球 : 気象研・石井	
NHRCM	領域 : 気象研・村田	
CReSS :	名大・坪木	
MIROC6 :	JAMSTEC・建部	
影響評価モデル :		
河川	京大・田中智	
陸面モデル	京大・萬	
波浪・海洋	京大・志村	
バイアス補正	東大・渡部	
3) 過去ハザード・影響評価, D/A, E/A 研究		(15:35-17:05)
H30 年 7 月豪雨・洪水	気象研・川瀬, 京大・小坂田	
H30 年台風 21 号強風・高潮	京大・竹見	
北海道地方における水分野の気候変動予測	北大・稲津	
H30 年 7 月熱波	気象研・今田	
4) IPCC AR6 レポート情報		(17:05-17:25)
WGI : 気象研・高萩		
WGII: JAMSTEC・石川		
閉会のあいさつ (統合 A,B,C PO・木本先生, D PO・原澤先生)		